

相双地域医療体験 研修事業実施報告

平成 29(2017)年 8 月 22 日～24 日

将来の地域医療の担い手育成に向けて



ごあいさつ

県では、地域医療に関心のある医学部生を対象に、へき地診療所等の地域医療の現場視察や地域住民との交流など、体験の場を提供する「地域医療体験研修事業」を毎年実施しています。

とりわけ相双地域は、東日本大震災とそれに伴う原子力災害の影響を大きく受けた地域です。「その中でどのように地域医療が行われているのか」という実情を学ぶことのできる大変貴重な機会とも言えます。

この春までに、大熊、双葉2町の全域と帰還困難区域を除いた区域では避難指示が解除され、居住可能な区域が大きく拡大しましたが、実際に住民の帰還を進めていくためには、解決していかなければならない課題が山積しています。

中でも医療体制の確保は、地域の復興に欠かせないものであり、避難者の方々の帰還の判断にあたって、最も重視される要素の一つとなっています。また、福祉や保健の面においても、人材不足等の深刻な状態が続いています。

このような厳しい環境下にあって、研修を受け入れていただいた関係機関の皆様に対しまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

参加者の皆さんには、この研修を一つのきっかけとして、いずれ、地域医療の担い手として活躍いただけるよう期待しております。

今後とも、当地域の復興へ向けた保健・医療・福祉の推進に取り組んでまいりますので、皆様方の御理解となお一層の御協力を賜りますようお願いいたします。

平成 29 (2017) 年 10 月

福島県相双保健福祉事務所長 飯沼 秀敏

— 目 次 —

研修要領	・・・	1
研修 1 日目 (8 月 22 日)	・・・	2
研修 2 日目 (8 月 23 日)	・・・	4
研修 3 日目 (8 月 24 日)	・・・	8
研修協力機関	・・・	12
参加者アンケート結果	・・・	13

研修要領

1 研修の目的

東日本大震災により県内で最も大きな被害を受けた相双地域の医療や復興の現状について、医療機関や被災地の視察及び地域住民との交流等を通して、理解を深めてもらう。

2 開催日

平成 29 年 8 月 22 日（火）～24 日（木）〔2 泊 3 日〕

3 対象者

地域医療に関心を持つ医学部学生 13 名

4 研修内容

(1) 地域医療等の現場視察・事例検討

現場視察を通して、被災地における医療・介護・福祉等の現状と課題等について学ぶ。

〔研修先：公立相馬総合病院、南相馬市社会福祉協議会（南相馬市地域包括支援センター）、富岡町立とみおか診療所、特別養護老人ホームかわうち、保健福祉医療複合施設ゆふね〕

(2) 医師や臨床研修医等との懇談

医師や臨床研修医等から、地域医療に対する考え方や体験談など生の声を聞き、意見交換を行う。

〔研修先：公立相馬総合病院、相馬郡医師会（懇談会）、富岡町立とみおか診療所〕

(3) 地域住民との交流

地元へ帰還した被災者等との交流を通して、被災地の現状について理解を深める。

〔研修先：南相馬市社会福祉協議会の健康サロン〕

(4) 地域視察

被災地の現状と復興への取組状況を視察し、相双地域への理解を深める。

〔研修先：訪問先所在市町村（通過町含む）：相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、川内村〕

(5) 課題研究・発表

あらかじめ提示した課題について研究する。また、研修を通して学んだことや考えたことをまとめ発表する。

5 宿泊場所

なぎさの奏 夕鶴（相馬市）、旅館 小松屋（川内村）

6 集合場所

福島駅西口、福島県立医科大学

7 参加費

集合場所からの旅費は県が負担する。

1 日目 (8 月 22 日)

■ 研修 1

地域医療を見て聴く

in 相馬市

公立相馬総合病院は、昭和 45 (1970) 年の開設以来、地域が必要とする安全で質の高い医療を確保し、保健福祉の向上に貢献するべく、人材の確保・育成・設備の充実を図っています。

- ① 金田院長の講話。東日本大震災時の対応や、医師育成の取組など。
- ② 3名の研修医と懇談。地域医療に対する考え方、やり甲斐など。
- ③ 「多職種連携」という点から、医師以外の職種の皆さんによる現場案内。医師に望むことなども伺う。

①



②



③-1



③-2



④



⑤



懇談会場・宿泊所
なぎさの奏 夕鶴

■研修その2

地域医療を見て聴く

in 相馬市

相馬郡医師会との懇談では、会長・副会長に、医学生を激励していただきました。

- ④ 夕食を囲み打ち解けた雰囲気の中で実施。
- ⑤ 樋口会長より。

参加者より

- 震災時の医療者の方々の具体的な活動が印象に残った。
- 研修医の話を聞いてモチベーションを上げることができた。
- 院内見学の際に詳しいことが聞けたことが良かった。
- 多くのコ・メディカル[※]の働きぶりを感じた。 ※医療従事者
- とても働きたいと思える病院だった。
- 医師会の方も熱い意志を持っていらっしゃる方が多く、このような先生方に将来教えていただけたら幸せだろうと感じた。

2日目(8月23日)

■研修3

体験する／地域を知る

in 南相馬市

同市の小高区は、東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難指示を受けました。昨年(平成28(2016)年)7月に指示が解除となり、地域・自宅での生活を再開した方もいます。

- ① 南相馬市社会福祉協議会で実施している小高区住民向けのサロンで、血圧測定や住民との交流。
- ② また、実際にあった事例を通して、地域の医療・福祉の現状と課題を把握。

(事例検討は、南相馬市地域包括支援センターにお願いしました。)

①-1



①-2



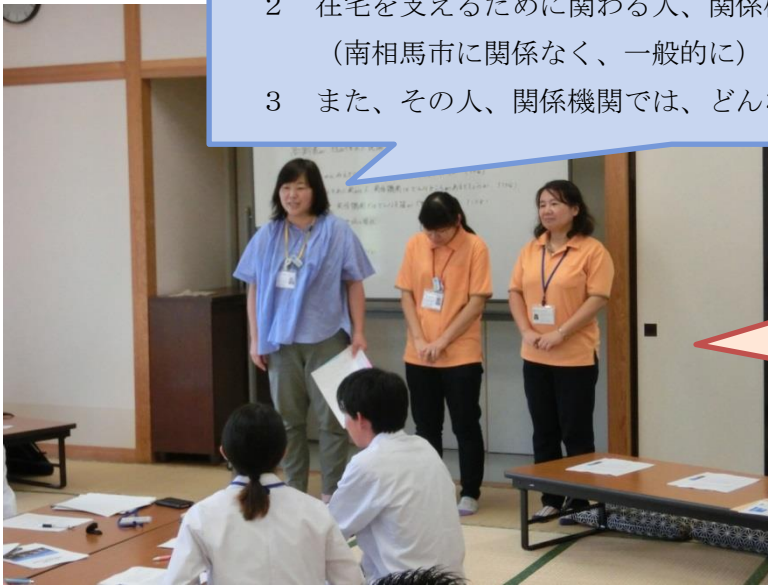
②-1



テーマ「高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく生活していくための支援」
 Aさんと妻（ともに80代）は2人暮らし。～中略～ 震災後は、県内の子ども宅へ避難。避難解除になり、夫婦で小高へ戻り、デイサービスを利用。～中略～ 妻の膝の手術のため、再度、子ども宅での生活。手術を無事終え、約2カ月後に再び、小高の自宅での生活が始まる。そんな、デイサービスを再開したある日、デイサービスの職員に連絡が・・・（以下、略）

②-2

- 1 この事例の問題点は？
- 2 在宅を支えるために関わる人、関係機関などはどんなところがある？
（南相馬市に関係なく、一般的に）
- 3 また、その人、関係機関では、どんな支援ができるか？



最後に、実際に対応した経過と地域の現状についてお話ししました。

学生の皆さんひとりひとりから感想を述べてもらいました。

参加者より

- 南相馬の現状を知ることができた。
- 住民の皆さんが積極的に話しかけてくださり、（血圧測定等が）やりやすかった。僕たちがこのような魅力を伝えていかなければならないと思った。
- 避難生活の影響、福祉の複雑さが印象的だった。
- サロンは単に交流の場であるだけでなく、地域の人々の健康・福祉に大きな役割を持っていることに気づいた。
- 多職種連携が実際に行われていた事例が印象深かった。
- 事例検討で活発な議論ができた。在宅医療や訪問サービスの必要性を思い知った。



大熊食堂（双葉郡大熊町）で午後の鋭気を養い、次の研修先、双葉郡富岡町へ。

2日目(8月23日)

■研修4

地域を知る／地域医療
を見て聴く

in 双葉郡富岡町

富岡町では、今年(平成29(2017)年)4月に一部を除き避難指示が解除されました。

避難指示解除に先立ち、町では、地域住民が安心して帰還できるよう、また復興の加速化につなげようと、昨年(平成28(2016)年)10月に、町立とみおか診療所を開設しました。

- ① 富岡町役場で町全体の復興の現状を学ぶ。
- ② 診療所では、所内見学後、今村所長を始め事務局・スタッフの皆さんの話を伺い、医療と復興について考察。

■研修5

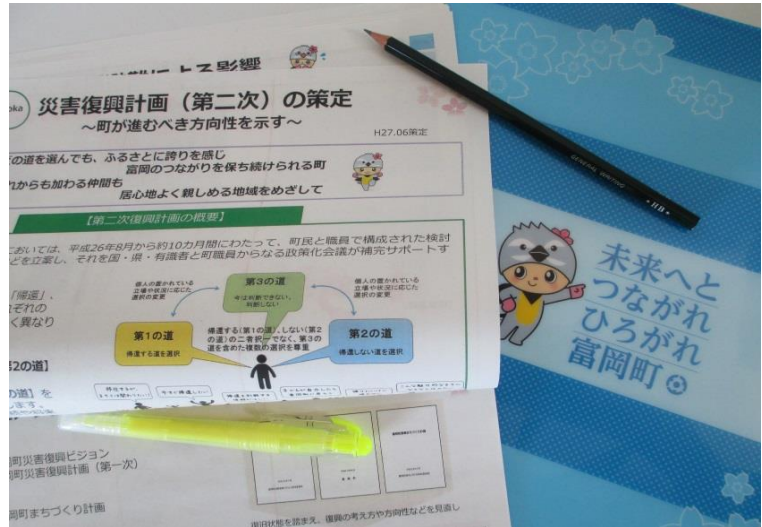
考えをまとめる

in 双葉郡川内村

2日目の締めくくりはグループワークです。

- ③ ここまでの研修内容を踏まえ、A・Bの2グループに分かれてKJ法でアイデアをまとめ、発表。

①



②



参加者より

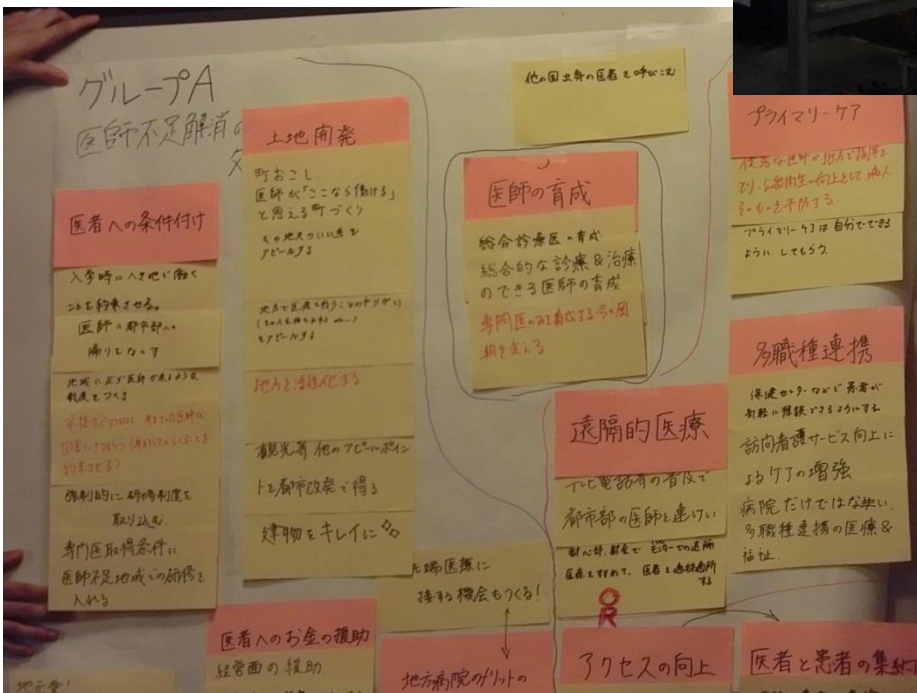
- 被災後に富岡町がどれだけ復旧に尽力してきたかがよく分かった。
- 町の復興を支えるために医師ができることはなにか、一例を学ぶことができた。
- 経営と医療の両立の話が印象的だった。
- 実際の地域医療を実感できた気がした。人とのつながりが大事だと改めて思った。
- 総合診療について、患者さんと向き合う姿勢についても知ることができたためになった。
- 地域で医師をする上でどう学んでいくべきか聞いたことが良かった。

③ テーマ グループ A 相双地域の医師不足解消の処方箋
 グループ B 相双地域の住民の健康を守る処方箋

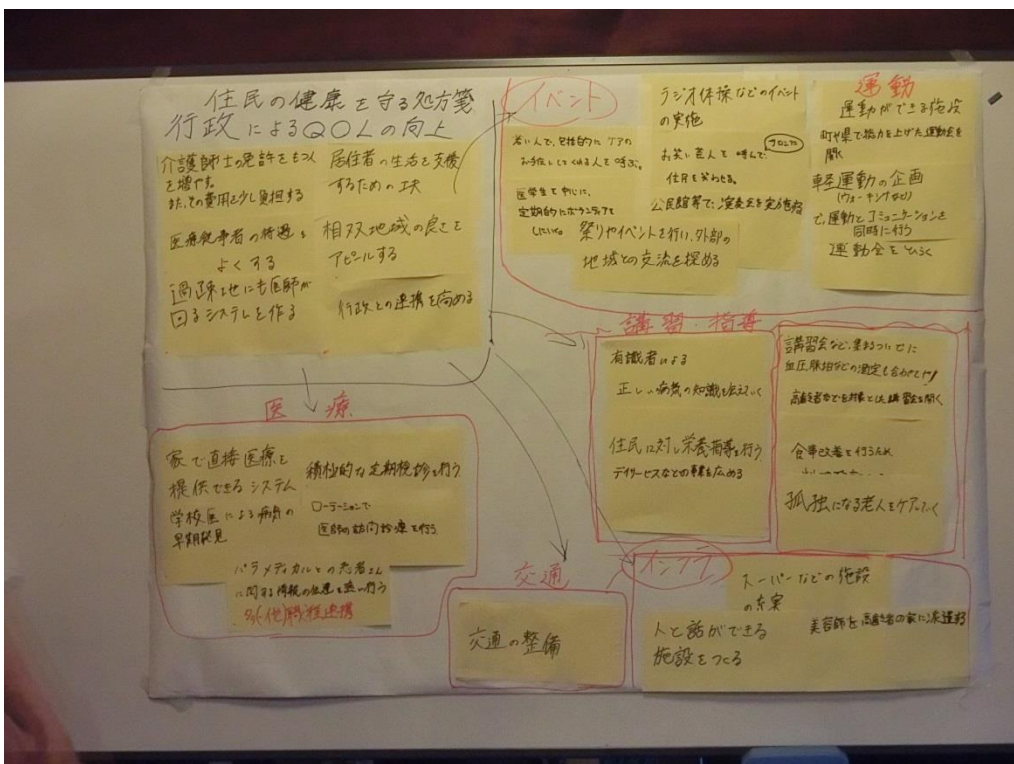


これはどこに分類？

発表します！



演習会場・宿泊所
 旅館 小松屋



3日目（8月24日）

■研修6

体験する／地域を知る

in 双葉郡川内村

日本は高齢化が進み、介護を必要とする高齢者の増加が見込まれます。相双地域も例外ではなく、高齢化率は県平均より高くなっています。

地域包括ケアシステム※の構築に必要となる介護サービスの確保に向け、必要な在宅サービスや施設サービスといった基盤の整備が求められています。

① そのような施設サービスの一つとして、特別養護老人ホームかわうちを訪問。

■研修7

地域医療を見て聴く

in 双葉郡川内村

村の保健・医療・福祉を担っているのが、複合施設ゆふねです。村の保健福祉課、社会福祉協議会、国民健康保険診療所が協働運営されています。

② 診療所で診察の様子を見学。

③ 木村所長から講話。

④ 村保健福祉課からの説明。

※地域包括ケアシステム：医療、介護、介護予防、住まい、及び生活支援が包括的に提供されるネットワーク

①-1



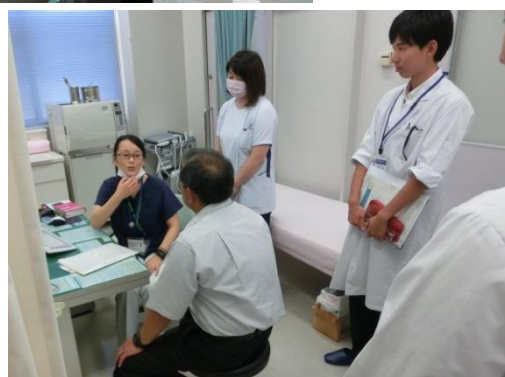
①-2



参加者より

- 入所者とお話することができて良かった。
- この施設の存在で川内へ帰ってこられた方も多く居るというのが、尊いことだと感じた。
- 入所したい方がかなり居ることを知り、介護施設の方も不足しているのではないかと思った。

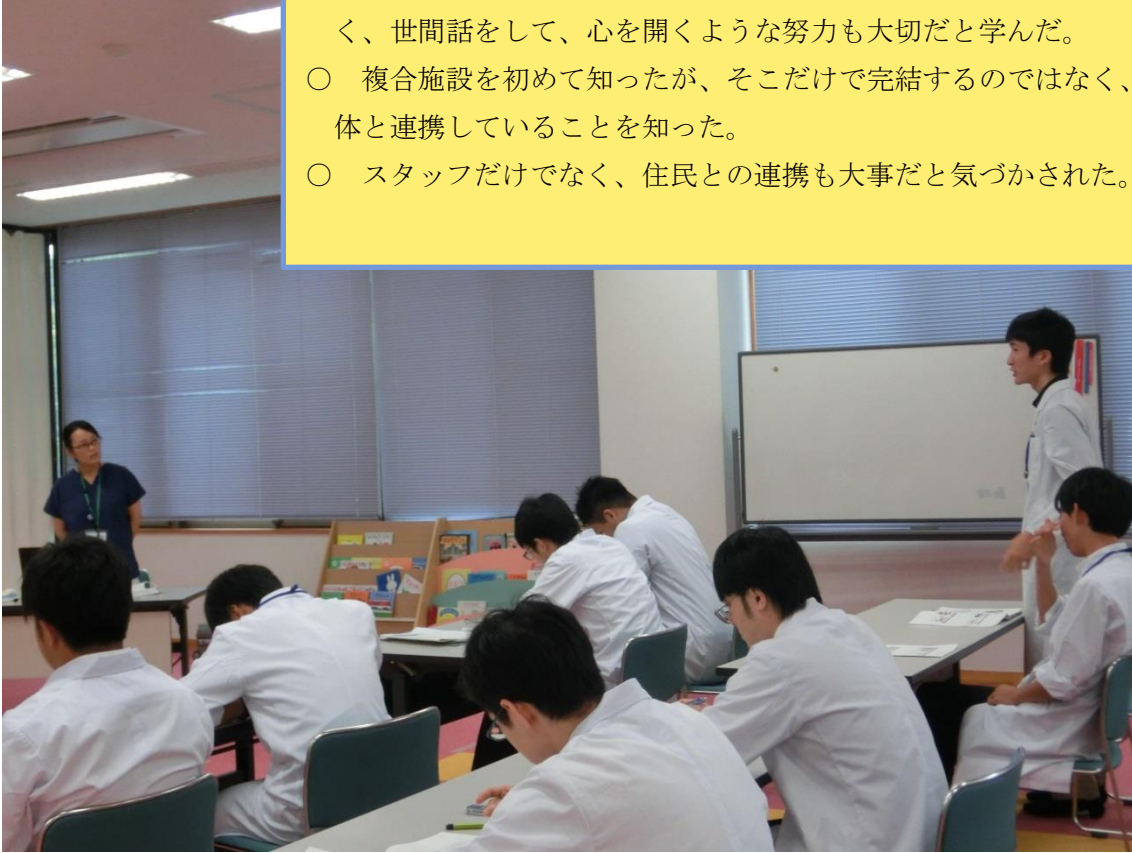
②



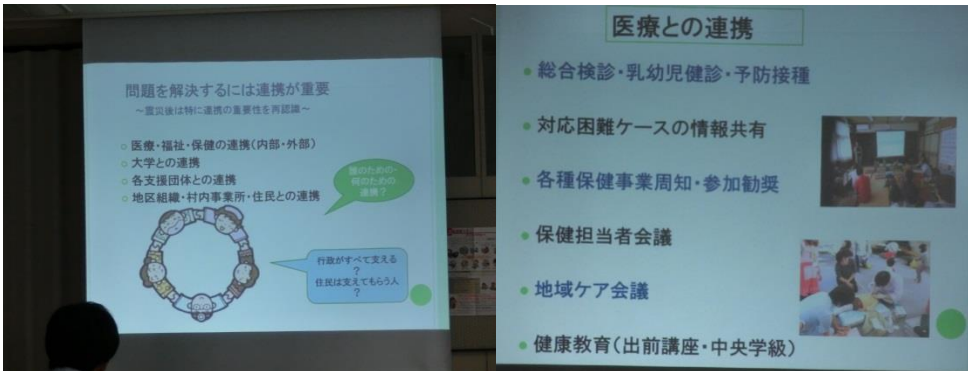
参加者より

- 所長さんの診察の様子を見学できたことが良かった。
- 地域住民に密着した医師ということで、単に医療的対応をするのではなく、世間話をして、心を開くような努力も大切だと学んだ。
- 複合施設を初めて知ったが、そこだけで完結するのではなく、様々な団体と連携していることを知った。
- スタッフだけでなく、住民との連携も大事だと気づかされた。

③



④



昼食は村内のいわなの郷幻魚亭で
(もちろん、いわな料理です)。
そして、いよいよラストスパートです。

テーマ

- 1 今回の研修の感想
- 2 地域医療に必要とされる医師とは？

スライド表紙（氏名入り） + 2枚 + α

一人3分、質疑応答2分 発表 14:45～

演習会場 いわなの郷体験交流館



まとめ中...



3日目（8月24日）

■研修8

考えをまとめる

in 双葉郡川内村

研修の総まとめとして、
2つのテーマについて各自
考えをまとめて発表、質疑
応答を行いました。



参加者より

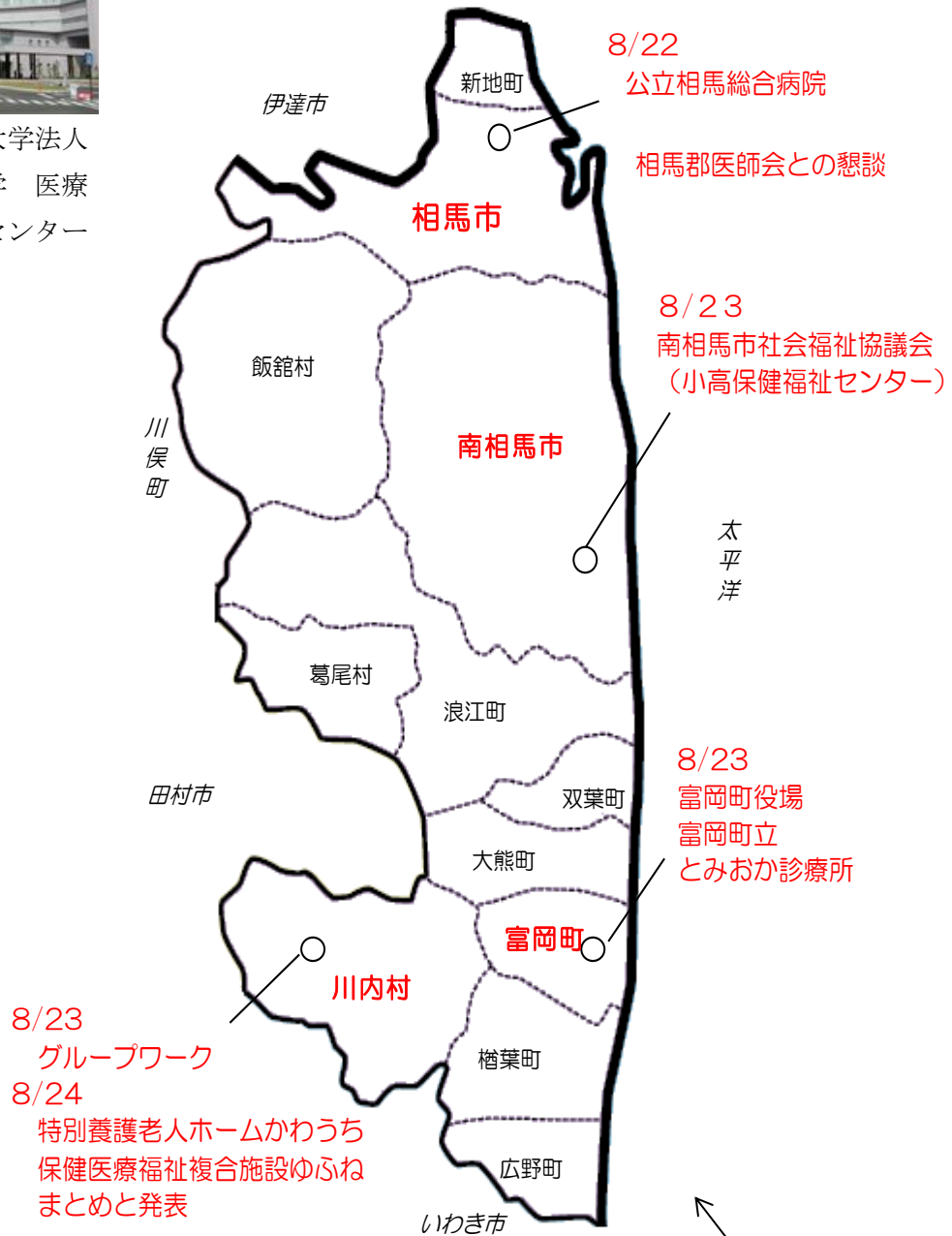
- 昨日の KJ 法に次いで、再びみんな
で考え方をシェアできた。
- 前日の KJ 法に続き、非常に将来
の糧となる発表会だった。考えてい
たり、感じていても今回のように積
極的・活発に話し合う機会がなかな
か無いので楽しかった。
- けっこう白熱した議論が展開さ
れたと思う。
- 質問がよく出るグループだった
のでかなり延長してしまい、もっと
時間に余裕があっても良かったの
ではないかと感じた。ただ、考え方
が個性的な人も多くとてもいい経
験になった。

研修協力機関

大変お世話になりました。



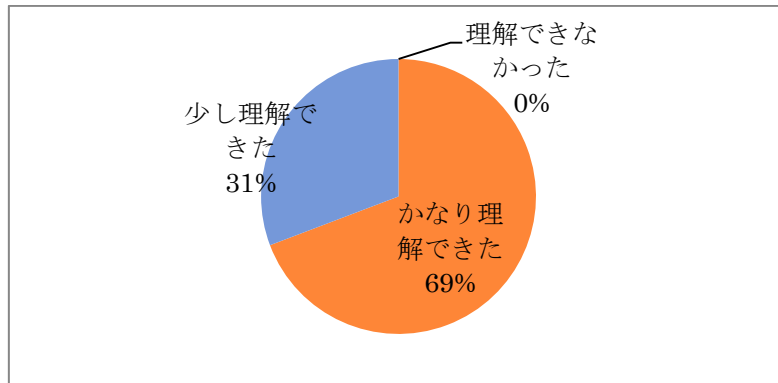
研修指導：公立大学法人
福島県立医科大学 医療
人材育成・支援センター



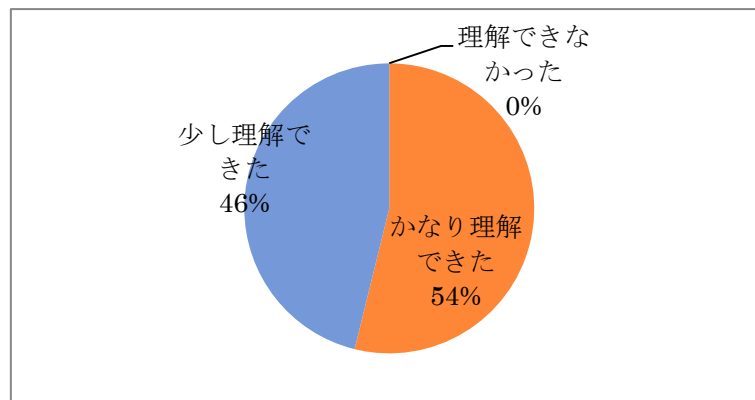
参加者アンケート結果

※回答者（参加者）：13人

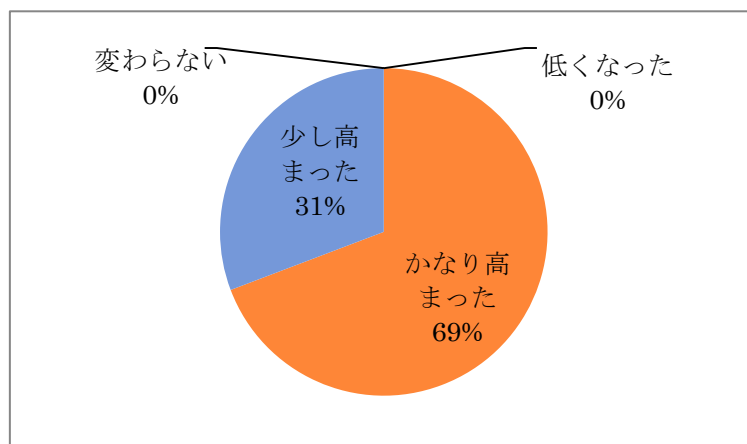
問1 相双地域の医療の実態を理解することができましたか？



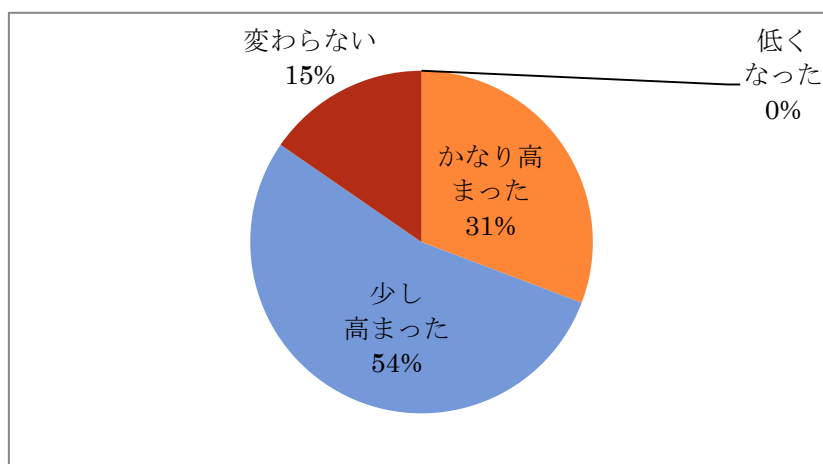
問2 相双地域の文化や住民の生活の実情などを理解することができましたか？



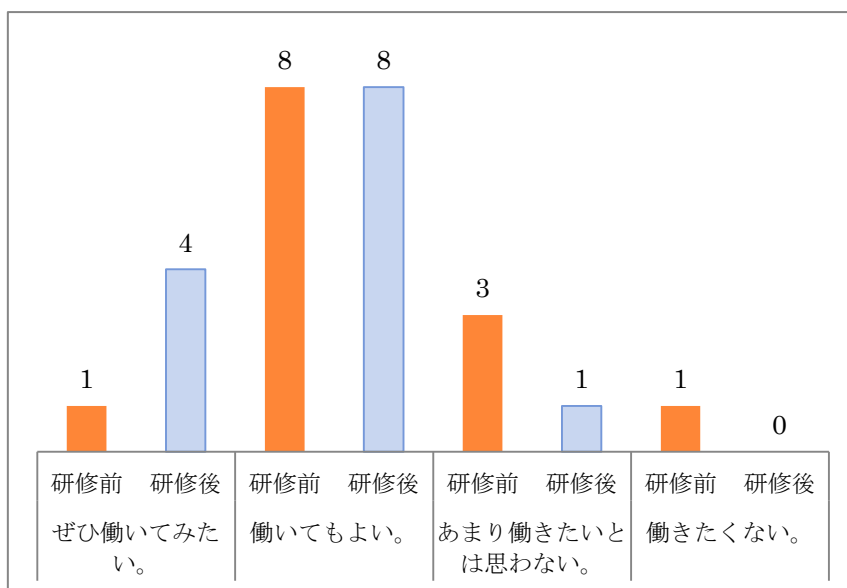
問3 地域医療に関する関心は、以前より高まりましたか？



問4 将来、医療過疎の地域での医療に関わりたいという意識は、以前よりも高まりましたか？



問5 今回訪れる（訪れた）地域の診療所や病院で、将来、機会があれば働いてみたいと思いますか？



「ぜひ働いてみたい」と「働いてもよい」を合わせると、研修前の9人から、研修後は12人に増加した。

研修全体を通しての感想の一部を紹介します。

今回の実習を通して、私は医学生としての役目や義務を再確認することができました。私は、震災の際、福島県におり、実際に地震を体験いたしました。津波の被害にあった海沿いの地域には、地震後からは、一度も訪れてはいませんでした。

それゆえに、地震から数年経過した今でも、復興が完全には完了していない福島の現状を目の当たりにして、言葉にもならない心境でした。原発事故の影響を直に感じ、福島での医療の難しさを実感したと共に、福島の医療を支えていきたいと思いました。また、診療所の先生方の生の言葉を聞き、ニュースや新聞では知ることのできないような話を聞くことができ、もし、同じような状況に将来自分自身になったときに、参考にできる話であったため、とても勉強になりました。

今回の実習では、私の価値観が変わり、福島県民としての自覚が深まり、とてもいい経験をさせていただきました。

私自身、被災地、ましてやその中心地域である相双地区に行くのは初めてでした。地域実習の前に、頭の中でこの実習のことを想像していったのですが、その想像はとても良い意味で裏切られました。まず最初に、相双地域の方々の雰囲気がとても明るかったことです。サロンの方々など、本当に気さくに話してくださって、身構えていた自分がばからしく思ってしまうほどでした。あのような危機を乗り越えたからこそ、周りの方々とつながりが強いからこそ、都心では無いような人の温かさが出るのだらうと感じました。

次に、医療スタッフの方々の心持ちです。1日目に伺った公立相馬病院の院長先生やスタッフ、そして2日目に伺ったとみおか診療所のスタッフの方々や今村先生、その全ての方が、人が少なく辛い環境の中でも、患者さんを助けをし続け、そこにストレスなども余り感じていないことに人として本当にすごいと感じました。自分が同じ環境下にいたらと何度も考えてみたのですが、上記の方々と同じレベルで患者さんに寄り添える自信は無いです。

最後に、クラスメート、先生、スタッフの方々を含めた、一緒に実習をした仲間が本当に良かったです。KJ法の時も気を遣わず意見をたくさん言ったり聞いたりでき、また、先生方も積極的に意見を出していただき、とても有意義でした。また、ご飯の時も実習に関することもそうでないことも楽しく話せました。

この他にも多くの感想・意見・提案をお寄せいただきました。
今後の研修企画に生かして参ります。ありがとうございました。